

みどりの街

創刊号

平成24年6月発行

花と緑あふれる箕面に…

発行：みどりの街しんぶん編集委員会
〔連絡先／090-5651-0259 佐藤秀代〕

あじさいの郷 夢プロジェクト

● 花を増やし地域を活性化、今年も130鉢！

箕面西小学校区で、昨年から始まった「あじさいの郷夢プロジェクト」は2度目の「あじさい里親」募集に先立ち、代表の渡辺智子さんがこのほど「市民プロジェクトみどり」主催の講習会の席上、これまでの取り組みと今後の方針について語りました。

この「夢プロジェクト」は西小学校と第一中学校に植えられているあじさいの木から「挿し芽」を取り、挿し木に育て、その挿し木からまた芽を取って校区内にどんどんあじさいを増やそうという地域ぐるみの運動です。昨年は苗に育った段階で鉢に植え替え、その鉢を育ててもらう「里親」を募り、30人がそれぞれ玄関先で水やりなどの世話をしてくれています。今年も130鉢ほどの苗が育ち、里親の募集を始めています。

鉢植えの「里親」募集中です！



このプロジェクトが続くと街じゅうにあじさいが咲き乱れるという夢が膨らむので「あじさいの郷夢プロジェクト」と名づけられたそうです。



●生長するとこのように咲きます

このプロジェクトは「箕面市まちなかのみどり支援事業」の助成も受けており、鉢には「あじさいの里親になってただ今、育成中」という統一シールが貼られています。

渡辺さんは「あじさいを通じて地域の活性化にもつながり、同時にいい街づくりにも貢献できるのじゃないかと思っています」と夢を語っていました。5～6年もたてば校区全体に紫やピンクのあじさいが咲き競うことでしょう。

[お問合せ：090-3926-5441 渡辺智子さんまで]

園芸ワンポイント

● 来年もうまくアジサイの花を咲かせるには？

花の直下にある小さい葉から数えて3番目の葉の手前で切り落とします。そうすると、花芽を持った枝が伸びてきます。ここより深く切ると葉芽しか出ません。

しかし、これを繰り返していくと、どんどん大きくなってしまいます。4～5年に一度大きく切り戻して小さくする必要があり、この時は1年花を諦めねばなりません。



れんげまつり、大にぎわい

石丸れんげ同好会主催の「れんげまつり」が今年も好天に恵まれた4月29日石丸一帯でにぎやかにくりひろげられました。田植えの始まるまでの間を利用したこのれんげまつりは今年で16回目。約1万5000平方メートルの耕地は赤紫のかわいいれんげでびっしり埋まり、家族連れや子供たちが弁当をひろげたり記念写真を取り合ったりして一日中歓声に包まれました。



みどりの街



鉢植えとハンギングのお庭

鉢植えとハンギングバスケットで、お庭にアクセントをつけた、おしゃれなお庭を紹介します。
狭い庭や日当たりの悪い庭でも、移動できる鉢植えなら、あまり場所を取らずに、すてきな空間になります。

石丸
3粟生
外院2粟生
新家2

情報プランター

“緑視率”ってご存じですか？「まちなみ会議」が研究開始

箕面の街のみどりの豊かさを数字で示そうと「みのお市民まちなみ会議」(会長・今枝さん)が、市民による“緑視率(りょくしりつ)”の研究に取り組んでいます。

従来は、上空からのいわば鳥の目で街を見下ろした、樹木の緑が占める比率を示す“緑被率(りょくひりつ)”が一般的です。

一方、“緑視率”は人の目で横から見た視野中の緑の比率をいいます。

この春メイプルホールなどで開いたパネル展で、その成果の中間発表を行いました。



彩り鮮やか



如意谷

色鮮やかな如意谷さくらまつり

“団地の花見”として親しまれている「如意谷さくらまつり」が今年も4月中旬に如意谷さくら広場一帯で華やかに繰り広げられました。薄いピンクのソメイヨシノ、赤いしだれさくら、真っ白なユキヤナギ、黄色いレンギョウが5800平方メートルの自主管理公園に競うように咲き乱れ、今年からは芝桜も彩りをそえました。花見客のなかには「間近で虹を見る感じ」という驚きの声をあげる人もいました。



石丸

ドライバーなごませるヒラドツツジ

為那都比古神社とサントリースポーツセンターの間を南北に走る府道119号線の両側約400mほどに植えられたヒラドツツジがゴールデンウイークにあわせるように一斉に開花しました。赤・白・ピンクの“フラワーロード”にはウォーキングの人たちもうっとり見とれていました。

バラ咲き競う

初夏、きらきら輝く季節、バラも太陽からのいっぱいの光を浴びて、鮮やかに咲いています。市内あちこちのお庭には、バラがすてきに咲き競っています。

この写真は、粟生外院2丁目、Yさん宅の写真です。



新稻の山すそに、借地方式で新しく「市民緑地」

箕面市は5月8日に、かつて大規模な墓地が計画された新稻のスカイアリーナ(市民体育館)北側の山すそ用地(約5ha。山林及び草地)について、土地所有者の宗教法人「真如苑」の社会貢献としての申し出でを受け無料で借りる契約を結びました。(固定資産税等は免除)

市は市民緑地として「箕面新稻の森」と名づけ、これから市民参加でみどり豊かな利用を検討します。

増える“花とみどり”的市民の取組

箕面では道路沿いの住宅敷地をお花で飾る緑花など“まちなみのみどり”への市民の取組が次々に誕生。

3年目を迎える市の助成が効果を上げ始めたとみられます。

市によると、助成を受けた取組は、新興住宅地を中心に急速に増えています。

平成22年度 9件 → 平成23年度 23件 → 平成24年度 21件(5月中旬現在)

(詳しくは市の「農とみどり政策課」へ。電話: 072-724-6728)

みどりの掲示板

菜の花まつり

見て、食べて、油まで!

菜の花を油田に！循環型のすぐれもの！

今や全国各地で「菜の花プロジェクト」が展開されているをご存知ですか？箕面でも数年前に止々呂美でスタートしましたが、今年は西小路3丁目（なか幼稚園西側）に菜の花を植えました。菜の花が満開の4月には「菜の花まつり」も開催されました。これから菜種を採取して、菜種油を搾ります。

この活動は菜の花を育てて観賞し、菜種を収穫、搾油して菜種油を作り食用にしたり、搾油時に残った油粕は肥料として活用し、また、廃食油もリサイクルするなど地域で循環型社会の実現をめざしています。

▼ 第1回菜の花まつり in 西小路



▲ 昨年の搾油体験会(子どもの森学園で)

雨天でも
開催！

箕面産ナタネ油の一番搾り体験！

7月7日土曜日 13時～ 場所：メイプルホール前

搾りたてのナタネ油で作ったポップコーン試食できます（子どもさん歓迎）。また、秋から始まる菜の花の栽培に参加していただける方も募集しています。

連絡先 メール：nanohanaminoh@gmail.com
携帯：090-2010-9771(牧野)

【編集後記】 今年2月にテスト的に「準備号」発行、その経験を経てようやく「創刊号」へ。
これからが本番！みんなの「しんぶん」として、ご意見や情報をよろしく。次号は、秋に出します。

白いたんぽぼ

を探してみませんか？

白いたんぽぼの分布状況を調査している「生きもの会議」（NPO 山麓保全委員会内）が、箕面市内での調査結果を発表しました。府立渋谷高教諭、石田達郎さんによると、桜ヶ丘の阿比太神社西南9か所や如意谷の聖母被昇天学院の東南7か所など市内30か所で確認されました。

白いたんぽぼには「シロバナタンポポ」とクリーム色がかかった「キビ（吉備）シロタンポポ」がありますが、今回見つかったのはシロバナタンポポだったといいます。水田や川沿いなど自然が残っている場所よりも公園や団地、駐車場など人工的に整備された場所で多く見つかっています。生きもの会議では「その理由は分からず、まだなぞも多い品種なので見つけた人はぜひ連絡してほしい」と呼びかけています。（連絡先 090-4901-6693 重本幸彦さん）



◀ 今回見つかった
シロバナタンポポ

市内30カ所で咲く
白いたんぽぼ分布図



Column

箕面の街の品格は？

- 「どうしてそんなところに突っ立っているんだ。信号が見えないよ。」「またこんなに散らかせて。もう知らないから！」事故が起きた落ち葉のシーズンになると下からじっとにらまれるんです。野鳥が糞を落としても私たちのせいなのです…。
- ケヤキやイチョウ、クスノキなど街路樹のそんな恨み節が聞こえませんか。でも、街路樹の影は子どもたちやお年寄りを猛暑から守り、粉塵や二酸化炭素を全身で吸い取り、爽やかな酸素に変えてくれています。派手な看板を隠しドライバーの目を前方に集中させる効用もあります。でも何よりもいいのは葉をつけ花を咲かせて四季の移ろいを知らせてくれることでしょう。「街路樹は街の品格を象徴している」とさえ言われています。

こんな街路樹に感謝の気持ちを伝えるため、カンカン照りが続く真夏には、ひしゃく1杯の水、バケツ1杯の水をそっと根元にかけてやってはどうでしょうか。バケツ1杯の水で箕面の街の品格を保とうではないですか。

ブログ みどりの街みのお 検索！ このしんぶんは箕面市の「まちなかのみどり支援事業」の助成を受けています。
編集協力：市民プロジェクトみどり

